



わくわく ゆったり 楽しく

ももたろう
活動報告



※ 写真の転載はご遠慮ください。

◆ 主な活動と空き状況
[5月7日現在]

入浴 火 ○ 金 ×

※ ○は空きがあります

【第1】		【第2】	
月 ×	歌唱指導	月 ×	アート制作
火 ×	手芸 (押絵)	火 ○	手芸 (押絵)
水 ○	歌 手品 ゲーム	水 ○	手芸 (押絵)
木 ○	習字	木 ×	習字
金 ×	生演奏での歌	金 ×	アウトドア
土 ○	レクリエーション ヨガ	土 ○	アウトドア 調理

ももたろうでは手洗い・うがいを徹底しており、洗面所にはピンク、トイレには水色のミニタオルを配置しています。このタオルは96歳の方が草花などをモチーフに、一枚一枚丁寧に刺繍して下さい。ところが毎日何枚かが見当たらなくなります。どこへ行ったのでしょうか？正解は、皆さまの居間や玄関の置物の下に再就職していただきます。差し上げてはおりませんので、嬉しいやら複雑な心境です。

デイサービス
ももたろう

東京都府中市矢崎町 2-3-5

TEL 042-366-5248

FAX 042-366-5239

WEB <http://mtaro.jp>

事業者番号 : 1373801685

『100歳まであと10年。 それ以上生きたら儲けもの』

～ 90歳・女性のライフストーリー ～

私は福島県の白河生まれで、父親は蔵大工でした。兄弟8人の末っ子が、今では自分一人だけ。家も残っていません。

20歳の時に結婚しました。18歳の時、出兵中の兵隊さんへ宛てた慰問袋※に「どなた様に届くかわかりませんが、ご無事に帰られたら、実家にいらして下さい。」という手紙を入れました。すると、受け取った方が尋ねてこられ「お嫁にくれませんか」と言ったのです。母は「いいわよ。どこかにやるんだから」と即決し、その方と結婚することになりました。

結婚生活が始まって1年8ヵ月。主人は2度目の出兵で支那に行きました。お腹の中に5か月の息子を宿して。そして主人は、日本の土を再度踏むことはありませんでした。

その後は一生懸命でした。子供が小さい頃は10年間和裁の仕立てをしましたが、裁縫だと学費が続きません。そこで3年間、総理大臣が泊られるような旅館で下積みをし、その後、日本料理屋の『ばんすい』を開きました。店の名前は大好きだった『荒城の月』の土井晩翠からとりました。その店を5年間続けた後、東京の笹塚駅前に『ばんすい』の名で主にオデンとオニギリを供する店を開いて40年、80歳になるまで店を切り盛りしていました。

その後府中の息子宅で10年、今に至ります。今はデイサービスや『水曜の会』等へ行き、日曜日のみフリーです。どこも悪いところはありません。たぶん100歳まで生きるでしょう。死ねなくなったら困りますが…。

他の方から「歳をとったら、病気になったら心配」「お金をいくら貯金していたら安心なのかしら」等々話をしていらっしゃるけれど、私は何も心配することはありません。足も達者で、杖なしで毎日4000歩歩いています。現在は息子夫婦と3人暮らして、近くに孫やひ孫がいて、毎日顔を合わせています。

「今が一番幸せ。」

※慰問袋 (いもんぶくろ)

戦地にある出征兵士などを慰め、その不便をなくし、士気を鼓舞するために、中に日用品などを入れて送った袋である。袋は、晒し木綿、または手拭い二つ折りであった。中に入れられた物は、日用品（ちり紙、手拭い、石鹸など）、衣服付属品（シャツ、腹巻きなど）、食料品、薬品、写真、絵画、お守り札などであった。戦地の気候や戦況を考慮すべきであるとされ、また場合によっては金子を贈ることもできた。差出人の住所、氏名を記し、手紙を添えた。送達方法は、寄贈者が居住地の市町村長を経て陸軍恤兵部へ寄付申込書を差し出し、その承認を受け内容を検査され指定された陸軍倉庫へ発送された（無賃輸送）。個人を指定したものは受理されないが、部隊を指定したものは所在地の陸軍官衙、部隊などを経て送達された。【Wikipedia より】